

「ありがとう」

立川市立立川第五中学校 三年 北瀬 美成実

学校の帰り道、小柄なおばあさんが背中を丸めながら、重そうに買い物袋を持ち、一步一步ゆっくり歩く姿が見えました。私の祖母と同じくらしい歳だろうか、自転車でもカートでもなく、歩いて重そうに荷物を運ぶ姿は膝の悪い祖母の姿と重なり、思わず声を掛けてしまいました。

「大変そうですね。お荷物をお持ちでしょうか？」

おばあさんは、驚いた顔で私を見上げましたが、

「あらそう？助かるわ。」

と荷物を持たせてくれました。初めてのことだったので、私も緊張しましたが、歩きながらお孫さんの話を聞かせてもらい不思議と楽しい時間を過ごすことができました。別れ際に何度も、

「ありがとうね。」

とお礼を言うてくださる姿に、私も胸いっぱい嬉しさが込み上げてきました。そして、「今日はなんて良い一日だろう」と思いながら帰りました。

この体験の後、同じように大変そうにしているお年寄りの方を見かけた時には、勇気を出して声を掛けるようになりました。皆さん、一瞬驚かれますが、制服姿から中学生だとわかると快くお手伝いをさせてくれます。そして無事に家に着き、荷物を渡すと、

「ありがとう！本当に助かったよ。ありがとうね。」

と繰り返しお礼の言葉を掛けてくれます。今までこんなにありがとうと言われたことがあっただろうかと思うくらいに、何度も何度も嬉しそうな笑顔で言うてくださいます。その度に、私も体中に嬉しい気持ちと勇気が湧いてきて、「こちらこそありがとうございます」という、幸せな感覚が広がるのです。

ずっと立川市に住んでいても、挨拶を交わせるのは近所の方だけで、同じ町内にいても、毎日通っている通学路の住民の方も、全く知らずに関わりもなく過ごしてきました。しかし、ほんの少し勇気を出して自分から声を掛けたことで、私の世界は変わりました。

祖母と同じような状況の人を少しでも助けられるのなら、何かお手伝いのできるのであればと思ったのがきっかけにはなりましたが、こうして同じ地域に住む人同士、声を掛け合っていけたら、とても幸せな気持ちで暮らしていけると思います。何か困ったことがあっても、自分からは誰か手伝ってとは、言いにくいもの。だからこそ、気付いた側が声を掛けられたら良いと思います。とはいえ、勇気を出して声を掛けても、必要ないと断られてしまうかもしれません。それは正直怖いです。しかし、私が出会った人たちは、皆さん喜んで任せてくれて、そしてたくさん、ありがとうの言葉を私に掛けてくれました。この嬉しさが、次へつながる勇気にもなりました。お互いが相手を思いやり、優しい気持ち

で接すること、その幸せは次の誰かにもつながります。若いから、お年寄りだから、ではなく、お互いを尊重しあって声を掛けていけたら、こんなにも温かで嬉しい時間があるのだということ、私は実感しました。自分には関係ないと通り過ぎるのではなく、少し気に留めるだけでも、心の中で何かが変わります。今、何もできなくても、いつかそんな場面に出会った時、心の中の声が出せるようになっていきたいと思います。ありがとうございますと言われる人も、どちらもとても幸せです。その幸せが、自分の暮らしていける町にあつたら、もっと毎日が楽しく豊かになるのではと思います。私は、たくさんのありがとうございますの言葉を掛けてくれた人たちに感謝しつつ、あの笑顔を胸に、これからも勇気を出して行動できる人でありたいと思います。

そして、これを伝えることで、勇気を出して行動してくれる人の輪を広げ、私たちが大人になる頃には、もっと居心地の良い優しい町になれるように頑張っていきたいと思います。